

名誉顧問のお言葉

来年度は伊勢ご遷宮の年となる。現在 20 歳前後の大学生の諸君も、次回の遷宮を迎えるころには 40 台、3 度目は還暦、そして 4 度目のおりには八十の翁、媼となる。当方などは、もはや次回まで存命しているかどうか、心もとない。

20 年に一度の遷宮は、後世の記録によれば西暦 690 年、女帝・持統天皇の時代に始まったとされる。途中で 1462 年の再建まで 123 年間の断絶や、1500 年から 1585 年までの中断なども挟むが、1931 年以降は、内宮、外宮の社だけでなく、五十鈴川の橋から、細々とした建築物にいたるまで、新品の檜に改める。

20 年という年月は、宮大工の技術をひとつの世代から次の世代に受け継ぐためには、最適かつ限界の間隔となる。とはいえ近代以前には、特段の設計図面もなく、宮大工たちは当時の神主たちと協議のうえで、建物の細部の様式や意匠だけでなく、社の配置にいたるまで、さまざまな変更を加えていたらしい。

金座と米座とのあいだを 20 年の間隔で新旧の構造が交替する。それはあたかも DNA の二重螺旋が一方から他方へと自己複製して形質を伝播する遺伝再生の営みにも類比できる。突然変異や先祖返りを含む過程を通して、「純粋な日本」という「歴史的構築物」を代表し表象する形態が洗練され、伝承されてゆく。

そこには新陳代謝する建築がある。武道における技の伝承にも、同様の更新の努力が不可欠だ。メタボリズムを喪失した伝統は、形骸化し、朽ち果てる。

国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学 教授
名誉顧問 稲賀繁美

編集後記

今年度のOB会会報誌、いかがでしたでしょうか。お気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、この度の表紙は三重大大学合気道部の活動場である第一体育館一階の柔道場入り口です。先輩方がこの絵を見て、「懐かしいな。」または「また稽古に行こうかな。」と願っていただけるように願いを込めて絵描かせていただきました。部員一同、先輩方のお越しを心よりお待ちしております。

今回の会報誌作成にあたりまして、お言葉をくださった里中先生、大木先生、山田先生、稲賀先生をはじめ、OB・OGの先輩方、お忙しい中ご協力くださりましたこと、御礼申し上げます。

また、2010年度のOB会における総会にて決定いたしました各期の代表の方々には、お忙しい中ご協力くださりましたこと、御礼申し上げます。

今後とも三重大大学合気道部を宜しくお願い申し上げます。

平成 24 年 6 月 OB 会

「かみはま合気道」～三重大大学合気道部 OB 会会報誌～ 2012 年度版 第 14 号

発行 2012 年 6 月

編集・発行者：三重大大学合気道部 OB 会

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 (国立大学法人 三重大学)